

教育センター通信

第8号(通算113号)
令和5年12月21日

三条市教育委員会
教育センター発行

ほど
火床の火の心を紡ぐ

小中一貫教育
トップページ



11月15日(水) 一ノ木戸ポプラ学園 小中合同道徳科研修会
「考え、議論する道徳」の授業づくり
文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官
十文字学園女子大学教育人文学部児童教育学科教授 浅見 哲也 様

誰一人取り残されない温かいつながりと環境づくり

学校教育課 指導主事 大野 郁子

先日受けたある研修の中で、講師の方からこんな質問がありました。「世の中には風邪を引いて体調を崩すと、医者に行く前に利き手に包帯を巻いてから内科に受診する人がいます。なぜか分かるでしょうか」と。「実は、不登校等により学校に通うことができず、病院の問診票を書くことができないために、利き手に包帯を巻き、怪我をしているふりをして記入してもらっている」とのことでした。読み書きができない原因は不登校だけに限らず他の要因もあると考えられますが、不登校で学校に通えなかったことが原因で、将来身に付けるべき力を身に付けられないという事態は十分に考えられます。学校はそれほど大切な場であり、学齢期はとても大切な時期です。

文部科学省は、誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策「COCOLOプラン」を打ち出しています。「COCOLOプラン」には、「1 不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える」「2 心の小さなSOSを見逃さず、『チーム学校』で支援する」「3 学校風土の『見える化』を通して、『みんなが安心して学べる』場所にする」の3つの大きな取組があります。

大切にしたいことは、児童生徒、保護者との温かいつながりと環境づくりです。気になる児童生徒に寄り添い、何ができるのかチームで支援計画を立てることが必要です。児童生徒に合ったスモールステップの目標が効果的です。既成概念にとらわれすぎない柔軟な対応も必要となるでしょう。チームには、必要に応じて医療、福祉、教育委員会などの関係機関も入れていきます。児童生徒、保護者を孤立させずにチームでつながり続けることです。児童生徒が、将来必要な力を少しでも身に付けられるように、小さな前進もともに喜べる温かいつながりと環境づくりを大切にしたいものです。

学園紹介（一ノ木戸ポプラ学園）

一ノ木戸ポプラ学園の保健委員会が中心となって、成長期の睡眠の重要性やメディアとの付き合い方について、小学校5年生と中学校1年生とが一緒に考えました。最初に小中それぞれの保健委員が小学校5年生と中学校1年生の生活習慣の実態と課題について発表しました。その後、柏崎市立教育センター指導主事の田村実様から、「すいみんを大切に、メディアバランスを考えた生活をしよう！～言われなくても自分から！～」というテーマで講演していただきました。よりよい生活習慣に向けて、みんなで睡眠の大切さや、スマホの使い方について考える良い機会となりました。



実態と課題を発表する小中の保健委員会



田村指導主事の講演の様子

学園紹介（瑞穂学園）

11月21日（火）、みずほスクール集会が行われました。西鱈田小、月岡小の6年生と本成寺中の生徒が一堂に会し、各学校のいじめ根絶に向けた取組の発表と生徒会本部が制作した動画をもとに自分だったらどのような行動をとるかを考え、グループで話し合いました。異なる学年で構成したグループの交流では、最初は緊張しながらも徐々に和やか雰囲気となり、笑顔が多くみられました。“いじめを生まないためには？”について、児童生徒からは、「明るい雰囲気をつくり、他人の良いところを見付ける」「いろいろな人とたくさん交流して仲良くなる」などの声がありました。



生徒会本部制作の動画を視聴



各グループでの話し合い

学園紹介（さかえ学園）

さかえ学園では、フラワーロード球根植え活動を行いました。中学校1年生が出身小学校へ行き、小学校5年生と合同で水仙の球根を植えました。当日は小雨の降る寒い中でしたが、みんなで協力して球根を植えることができました。この活動を通して、小・中学生と地域の方々との交流の場をもつことができました。学校運営協議会や地域の方、中学生がスコップで穴を掘り、小学生からは感謝の言葉が多く聞かれました。また、地域の方々と協力して行い、地域とともに成長している気持ちも高めることができました。今後も活動を継続展開し、地域住民の小中一貫教育に対する関心を高める一助としていきます。



球根植え（11月13日・栄北小学校）



球根植え（11月13日・東西線道路脇）

学園紹介（大崎学園）

11月22日（水）に、全学園生で絆づくり集会を実施しました。学習参観日にしたことで御家庭や地域の方にも見ていただくことができました。

【目的】「全校が一体感を味わい、所属感や連帯感を実感し、『いじめ見逃しゼロ』に向かう集団・風土をつくる」

【事前活動】

- ① 顔の見える関係性づくりのための全校学活 <自己紹介カード交換 他>
- ② 思いやりや互いの良さに気付き絆を深める人権教育、同和教育、道徳授業、SNS教育、自殺防止プログラムの実施
- ③ 思いやりや互いの良さに気付き絆を深める学年の取組 <各学年>
- ④ 前期・後期委員会コラボ活動 <各委員会>
- ⑤ 「大崎絆づくり宣言六ヶ条」の掲示

絆づくり集会当日は、双華会本部が中心となって会を運営しました。ダンスや折り紙での四つ葉のクローバー共同制作などを通して、「いじめ見逃しゼロ」に向かう気持ちを高めました。「後期生にダンス上手だねと褒められてうれしかった。」と笑顔で話してくれる前期学園生や「前期生、後期生と一緒に活動できてよかった。」と交流で絆を深め、活動の価値を自覚する後期学園生が見られました。直接関わり合い、協働的に活動することの価値の大きさを学園生の姿から感じました。

学園生がお互いを大切に、いじめを見逃さないことを再確認できた充実した集会活動となりました。



授業の一層の改善を（授業力向上研修 Step 1・2）

8月下旬から始まった授業力向上実践研修は、11月22日（水）までの約3か月間で合計45回以上の研究授業が行われました。受講者は担当指導主事と授業構想を立て、校内での検討会を重ねて本番の研究授業公開に臨みました。子どもと真剣に向き合い、熱心に授業に向かう受講者の姿に感銘を受けるとともに、参観者は研究授業を通して多くのことを学ぶことができました。

授業後には、受講者と担当指導主事が授業を振り返りました。本時の手立ての有効性や子どもの変容について互いの考えを出し合い、成果と課題と共有しました。また、オーダーメイド訪問を行った学校では全体研究協議会を行い、教職員の皆様とともに授業を振り返りました。

11月24日（金）から行われた第4回学習会では、受講者が実践のまとめについて、担当指導主事とオンラインで相談しました。受講者はこの後、実践の成果と課題を教育研究論文（Step 2）や実践記録（Step 1）にまとめます。校内教職員の皆様の一層の御指導御支援をお願いします。



【研究授業(9/20 飯田小学校)】



【研究協議会(9/20 飯田小学校)】



【オンライン学習会での個別相談】



休日部活動の段階的な地域移行 進捗状況の報告

11月18日に陸上競技の地域クラブ活動がスタートし、今年度に予定していた3種目の地域クラブ活動が全て開始されました。開始日や参加申込人数、指導者数については次のとおりです。

種目	開始日	参加申込人数	指導者数（うち兼職兼業の教員数）
柔道	5月20日（土）	17人	8人（1人）
軟式野球	7月8日（土）	69人	8人（7人）
陸上競技	11月18日（土）	72人	24人（4人）

また、吹奏楽部の休日部活動への指導者派遣は6月に開始し、11月末までに5校に延べ83人を派遣しました。

令和6年度は、今年度活動を開始した種目に加え、他のスポーツ種目についても段階的に開始していきます。新たに開始する種目や開始時期については、決まり次第お知らせします。吹奏楽部への指導者派遣については、各学校のニーズに応じて増やしていきます。

